

高信頼性ICタグ

「光り玉」とICタグ

RFIDの大きな成功例としてスイカに代表される電子乗車券があげられます。また、愛知万博での入場券に使われたRFIDも成功の例です。ところが、ものに付くICタグという分野では数桁使用量が大きいと言われながら普及は全くされていません。

これはバーコードという低コストで信頼性抜群の方法があるからです。ここでいう低コストと信頼性とはものとIDの紐付けが印刷により安く、正確にできるということです。ICタグではまだそこまで技術が成熟していません。

高信頼性のICタグは産業、プラント分野から導入されていきますが、大量ではありません。

そこで、(株)R&Vの宇佐美光雄が提案しています「光り玉」はICタグをサブシステムとする機能デバイスです。従ってテリトリはICタグよりはるかに広いのです。機能の実現は巧妙なソフトに依存していてノウハウを組み込みますので簡単に模造はできない仕組みになっています。